平成 25 年度秋季特別展



- 奈良市埋蔵文化財調査センター 30 周年記念 -



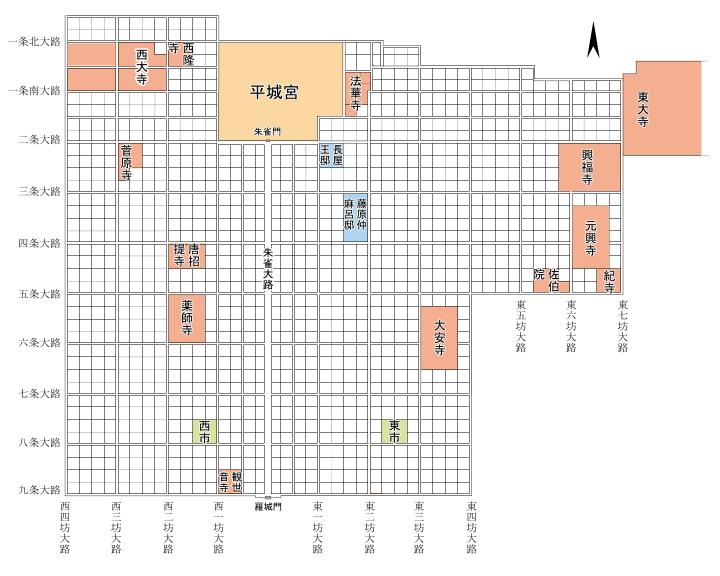
平城京の発掘

和銅3 (710) 年から74年の間、都がおかれた奈良市の地下には平城京の遺跡が残されています。都の北辺中央にある平城宮については、1959年から奈良国立文化財研究所(当時)の発掘調査が計画的に継続して行われてきました。しかし、都の部分、京域の調査は市内の土木建設工事に伴うものが多く、1980年から奈良市教育委員会がその発掘調査を分担することとなりました。1983年に埋蔵文化財調査センターを設置し、平城京を中心に市内の遺跡の発掘調査を進めてきました。30年間の発掘調査で明らかになった古代都市、平城京の姿を紹介します。

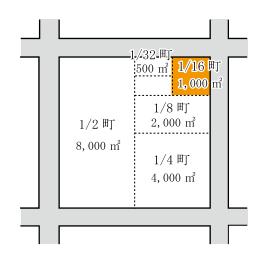


京のかたち

都は、天皇の宮殿や政府の役所がある宮と貴族、官人、庶民の居住地である京から成り立ちます。京内はその中央を南北に走る朱雀大路によって東の左京と西の右京に分かれ、左右京のそれぞれ約530m(1500大尺)おきに計画された南北方向の4本の坊大路(東一~七坊大路、西一~四坊大路)と東西方向の9本の条大路(一条~九条大路)によって、南北9ブロック、東西8ブロックの方形に区画された「坊」に分けられています。広大な世界を象徴する8と9という数の極数の街区によって都はできており、その中心に平城宮が位置します。

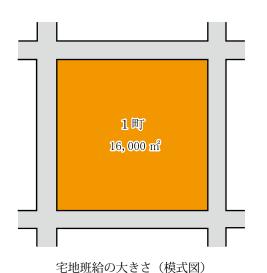


平城京復原図



京の宅地

坊内を東西・南北に通る3本の小路で16分割した1 町 は、宅地班給の基本単位となります。これまでに4町~1/32町規模の宅地が発掘調査で確認されており、1町以上の貴族の大規模な宅地は平城宮に近い二条や三条に多く、小規模な下級官人や庶民の宅地は六条以南に多いことがわかってきています。宅地の大きさによって建物の規模も異なります。平城京の条坊制度は位に応じて宅地を分け与えるためのもので、都の景観は天皇を頂点とした律令制度を視覚的に表現したものといえます。



1 1/16町規模の宅地模型 (右京八条一坊)

2 1町規模の宅地模型 (左京三条二坊)

掘り出された建物

THE STATE SHOW TO SHOW TO SHOW THE SHOW

平城京の発掘調査で検出される建物のほとんどが掘立柱建物で、屋根は板葺き、檜皮葺き、草葺きが多く、瓦は出土量からみると棟の一部などに使われていたようです。総瓦葺きの建物は、離宮・役所・寺院などの礎石建物や大路に面する築地塀などに限られていました。

地上に存在した建物の部材そのものが井戸枠などに転用されて残っていることがあり、京内の発掘調査で発見された建物部材は奈良時代の建築を知る上で貴重な資料となります。





三彩を施釉した屋根瓦

宮に近い左京二条二 坊から出土した多量の 三彩施釉瓦は特異な存 在です。屋根の一部を きらびやかに飾った離 宮あるいは外国使節の 饗 応 施設などの存在 が想定されます。

朱塗建物の瓦

朱雀大路と四条条間路の交差点では、下面に朱が付着する軒平瓦が見つかり、朱塗りの建物が道際に存在したことがわかります。出土地点は四条一坊の西面坊門に近く、坊門の瓦の可能性も考えられます。



4 朱雀大路と四条条間路の交差点から出土した朱付着瓦



5 屋根板(左京一条三坊出土)



6 法隆寺金堂の裳階屋根(大和葺き)

板葺き屋根

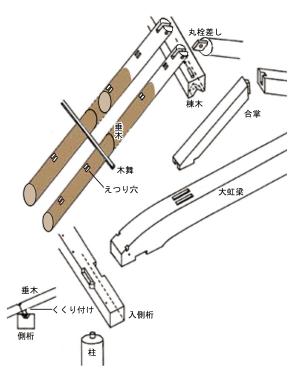
左京一条三坊の井戸枠に転用されていた屋根板は、厚い板材を上下交互に重ねて葺く「大和葺き」と呼ばれる板葺き屋根の下材です。こうした葺き方は法隆寺金堂・五重塔の裳階屋根にみることができます。縦引鋸が無い奈良時代には板材の製作は丸太を割って仕上げねばならず、たいへん手間がかかりました。

_{ひゎだ} 檜皮葺き屋根

西大寺旧境内の井戸枠には垂木が転用されており、約24~27cm 間隔で木舞を縄でくくりつけるためのえつり穴があけられています。木舞を細かく編みつけて檜皮を葺いた構造が復原できます。



7 檜皮葺き屋根の復原建物(平城宮跡)



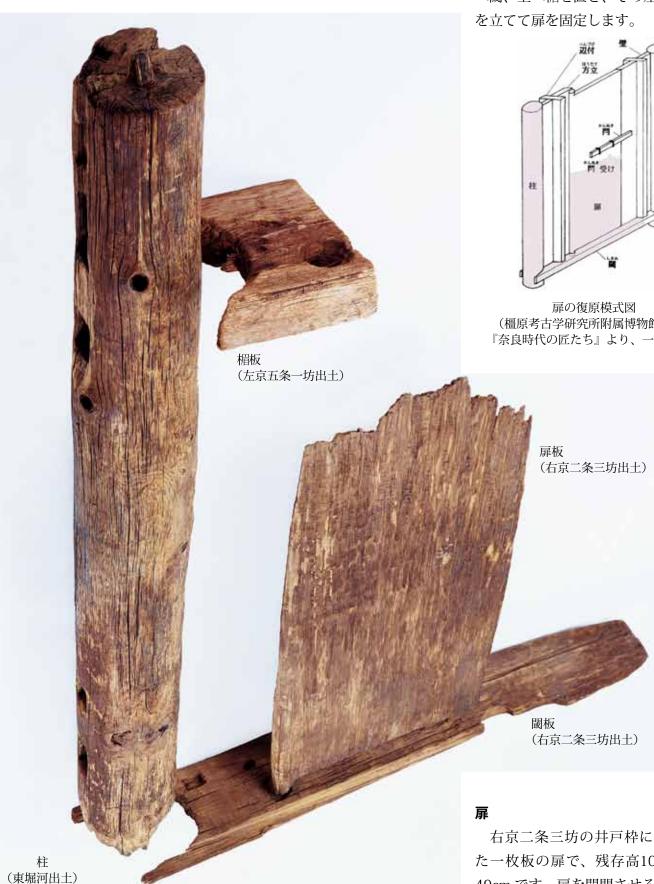
屋根の構造模式図(岡田英男2005『日本建築 の構造と技法』より一部改変)



8 垂木(西大寺旧境内出土)

柱

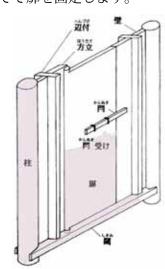
東堀河の護岸に転用されていた直径0.2mの 柱材で、長さ1.8m分が残っています。下端は な。 腐朽していますが、上端に柄があり、4箇所に 買孔があります。



9 柱・楣・閾・扉(平城京各所)

しきみ まぐさ **閾と楣**

右京二条三坊の井戸枠に転用された 閾板と左京五条一坊の掘立柱建物に柱 穴礎板として再利用された楣板の一部 があります。扉をはさみ込むように下 へ閾、上へ楣を置き、その左右に方立



(橿原考古学研究所附属博物館2010 『奈良時代の匠たち』より、一部改変)

右京二条三坊の井戸枠に転用され た一枚板の扉で、残存高109cm・幅 49cmです。扉を開閉させるための軸 が残っています。



右京二条三坊の井戸枠に転用されていたれたまでの枠材で、横様に転用するために両端が削られており、本来の長さは不明です。5cm四方の角材(連子)をはめ込むための菱形のくぼみが連なってついています。

11 連子窓枠(右京二条三坊出土)

床板

西大寺旧境内の井戸枠に転用されていた幅26cm・厚さ5cmの床板で、柱があたる部分を円弧に削っています。 再利用する際に切断されているため、本来の長さは不明です。板の両端に相欠きを入れて、横板組の井戸枠に再利用されています。



13 床板(西大寺旧境内出土)と柱(東市出土)

井戸のかたち

生活用水を得るための井戸は宅地ごとに設けられています。井戸枠のかたちや構造はさまざまで、宅地規模によっても大きさや構造が異なっているようです。形は方形と円形が多く、まれに六角形や八角形もあります。平城京で最も一般的にみられるのは、板葺き屋根などに使われた縦長の薄板を利用した縦板組の井戸枠です。

土井桁に建つ構造(方形)

左京四条四坊の井戸は、四隅に立てた柱の縦溝に横板を落とし込む構造です。底に組んだ土井桁の四隅に柱を立てています。土井桁の上に構造物を建てる点は神社建築とも共通し、建築技術が井戸枠に応用されていることがわかります。



14 土井桁に建つ社 (西大寺石落神社)



15 土井桁に建つ井戸枠(左京四条四坊出土)



16 木製釣瓶(左;左京五条二坊出土)と土器釣瓶(右;左京四条一坊出土)

浄水装置と釣瓶

井戸底には、砂の巻き上げを防止するための機や水質を浄化するための木炭を入れていることがあります。井戸水は釣瓶で汲み上げました。左京五条二坊出土の木製釣瓶は、鉄製の吊金具を取り付けた珍しいものです。また、左京四条一坊出土の土師器甕の外面には、籠を被せた痕跡が残っており、被せた籠に縄をつけて釣瓶に使用したと考えられます。頸部に縄が巻きつく土器が井戸から出土することもあり、焼物が文字通り釣瓶として使われる場合が多かったようです。

一木を刳り抜く井戸枠(円形)

大きな一木の内部を刳り抜いた円形の井戸枠は、弥生時代から認められる伝統的な構造です。巨材を割って、内部を刳り抜き、他の部材を合わせてつくる例もあります。巨木をぜいたくに使用する点で、その利用者は限られてきます。



17 刳り抜き井戸枠(左京五条四坊出土)



18 陶製の井戸枠(左京三条五坊出土)

とうせい **陶製の井戸枠**

刳り抜きの井戸枠をまねてつくったと思われる焼物の井戸枠が左京三条五坊の井戸に使われていました。直径 95cm 前後・高さ112cm の大形品で、外面に叩き板の痕、内面に同心円のあて具の痕といった製作時の痕跡が残っています。硬く青灰色に焼かれており、須恵器の製作工人によってつくられたことがわかります。

文字を刻む井戸枠



19 刳り抜き井戸と刻字「新司」(左京五条四坊出土)



20 左京三条四坊の井戸に 刻む「此舩主冨福来」

暮らしの器

奈良時代には、さまざまなものが大きさや素材を変えてつくり分けられ、格式や機能の違いを視覚的にあらわしていました。それは暮らしの器にまで及び、異なる焼物の土師器・須恵器にも器種の共有と大小のつくり分けがみられます。また、一般に使用された木製の器も、漆塗りの有無で格差が表現されていました。金属器の佐波理と漆器は高級品で、貴族が使用したほか、仏具としても利用されました。

LONOUS LONOUS

杯•皿•椀

個人ごとに飯・菜・汁を別の器に盛り付けた食膳を箸で食べるといった食事法が宮中の宴会で採用され、金属器の形をまねた須恵器と土師器を組み合わせた杯・皿・椀からなる画一化された食器が平城京では使われています。規格性のある食器の組み合わせや大きさに身分が反映され、使い分けられたと考えられます。また、こうした土器の食器は儀式用で、一度きりの使い捨てだったと考えることもできます。



21 土師器と須恵器の杯・皿・椀(平城京各所出土)

壺・瓶

酒や水の容器には、一般的に硬質の須恵器が使われました。さまざまな種類の形と大小があり、内容物や用途によって使い分けられたとみられます。



22 須恵器の壺・瓶 (平城京各所出土)

木器・漆器・金属器(佐波理)

奈良時代の食器には、土器だけでなく、金属器の佐波理や木器もありました。木器には白木の器と、漆塗りの漆器があります。

佐波理や漆器の食器は高級品で、庶民の日常食器には白木の皿や曲物が使われたようです。

箸を使って食べる食事法も奈良時代に普及し、金属製と木製の箸を位に応じて使っていたとみられます。



23 木製の日常食器(平城京各所出土)



24 漆器と佐波理の食器(平城京各所出土)

台所の道具

台所の道具には、煮炊きの道 具、貯蔵の道具、調理や配膳の 道具があります。煮炊きには、 土師器のカマド・甕・鍋・塩 、鍋・塩 、鍋・塩 、一、水や米・酒などの貯蔵には須恵 器の甕・壺、調理や配送を 子なを 用いています。発掘調査で多く 出土するのは土器類ですが、たと 思われ、遺物として失われてし まうことが多い木製や金属製の 道具も、台所で普通に使われて いた可能性が高いと考えられま す。。



25 台所の道具(平城京各所出土)

暮らしの用具

暮らしの用具のほとんどは有機質などの素材でつくられていたため、残らないものが多くあったと考えられます。 わずかに残った木製品や金属品が、その一端をうかがわせてくれます。

_{はきもの} **履物**

履物には藁細工の草鞋と木製の木履・下駄がありました。東市から出土した木履は長さ20cm 前後と推定され、木を刳り抜いてつくっています。下駄は東堀河出土品(長さ22.5cm)です。台と歯を一体につくる連歯下駄で、鼻緒孔をかたよせて左右をつくり分けています。奈良時代以降には中央に鼻緒孔をあけるものが増えていきます。



26 木履と下駄(平城京各所出土)



27 横櫛と竪櫛(平城京各所出土)

櫛には、横櫛と竪櫛がありました。

左京五条二坊の井戸から出土した横櫛には、大中小の大きさがあり、小型品は長さ3.7cm・高さ1.3cm、中型品は長さ7cm・高さ2.3cm、大型品は高さ4.2cmで長さは不明です。櫛には悪霊をはらう呪力があると信じられ、祭祀遺物とともに井戸から横櫛がよく出土します。東堀河出土の竪櫛は上半部と櫛歯の多くを欠失していますが、櫛歯が粗く、馬櫛の可能性も考えられます。

帯金具

官人は、衣服の色や身につけるさまざまなものが、身分によって定められていました。腰に巻くベルトも身分を示す重要なアイテムで、バックルに相当する鉸具、ベルトの端部を補強する蛇尾、飾り金具である四角形の巡方と半円形の丸輪が取り付きます。五位以上は金銀装の金具、六位以下は銅製黒漆塗りの金具をさらに大きさを違えて使い分けました。平安時代になると、次第に石製の帯金具が用いられるようになりました。



28 带金具(平城京各所出土)

粗目の編物を袋のようにとじ合わせてつくった漆塗りの冠(漆紗冠)です。『日本書紀』によれば、天武天皇11(682)年に男性が結髪して漆紗冠を被るようになりました。出土する漆紗冠は漆膜だけが腐らずに残るだけで、非常に脆くなっています。出土するものは破片が多く、全形がわかる資料はほとんどありません。



29 漆紗冠(大安寺旧境内出土)とその復原イメージ



30 檜扇(右京二条三坊出土)

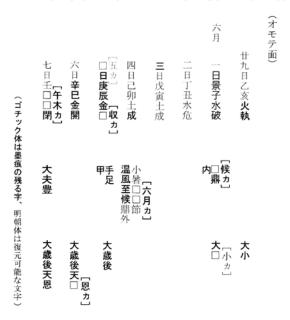
ひおうぎ

複数枚の檜の薄板を下端で束ねて木釘でとめ、各板の上方を糸で綴じ合わせて開閉できるようにつくった扇です。左京三条二坊の長屋王邸出土品が最古の檜扇とされています。

右京二条三坊の井戸から出土した檜扇は13枚の骨板で構成され、表裏合わせて7枚に万葉仮名などの墨書があります。 奈良時代に日本でつくられた檜扇は、メモ帳を兼ねた送風具でした。

^{ぐちゅうれき} 具注暦(こよみ)

右京二条三坊の井戸から見つかった漆紙文書は、その内容から宝亀9 (778) 年5月から6月の具注暦であることがわかりました。具注暦には日々の吉凶判断を行うための事項が書かれており、京内での生活に欠かせないものでした。毎年11月1日に翌年の新しい暦が作成され、各役所へ配布されたものを書き写して使用しました。



出土漆紙文書釈文



31 具注曆(右京二条三坊出土)



32 農工具(平城京各所出土)

農工具

刀子は日常的に持ち歩いて使用した万能小刀です。鎌は曲刃鎌で、斧には刃先が柄と平行する縦斧と直交する横斧(手斧)があります。鏟は、斧の刃先が大きく広がる形態の工具です。 鋤先は木製鋤に取り付けるU字形の刃先です。 木槌は頭部だけが残っています。



33 鍵(右京二条三坊出土)

かぎ **鍵**

右京二条三坊の井戸から出土した鍵で、大きく 折れ曲がった鉄棒に木製の把手が付いています。 鍵状に曲がる鉄棒の先端を鍵穴から差し入れ、内 側の落とし桟をはずして扉を開ける道具です。把 手の先端には鉄製の環が打ち付けられています。

からびつ **空楣**

脚付きの櫃を辛櫃と呼びます。左京五条四坊出土の辛櫃は、井戸枠に転用され、脚と底板が外されていますが、取り付け痕跡から四脚形式であることがわかります。側板の四隅を8枚柄で組み、各柄を鋲留してから黒漆で蔭切を行っています。正倉院に残る奈良時代の古櫃と同じもので、京内からは2例出土しています。



単位とお金

ALACH ALACH ALACH ALACH ALACH ALACH ALACH ALACH

度(長さ)・量(容積)・衡(重さ)の統一は、徴税によって成り立つ国家運営の基礎を固めるために必要で、奈良時代に唐制に倣って統一されました。また、「和同開珎」は平城京の造営費用を捻出するために発行された貨幣です。日本人が貨幣の流通を経験し、物価の高騰に悩まされる時代は平城京で始まりました。

重さと長さ

左京九条一坊から出土した幹秤用の錘は壺形をした優品で、重量は329.1gです。1 片の重さは668.8g前後で、錘は半斤の8両でつくられたとみられます。

左京八条二坊出土の物指は、1 寸 (2.96cm 程度) 刻みで両面に線を入れています。途中で折れていますが、5 寸目の刻線上に \times 印があるので、本来の長さは1 尺 (10寸) であったと思われます。



35 錘と物指(平城京各所出土)

容量

左京五条四坊の条間北小路側溝から出土した須恵器椀の底部には「四合」の墨書があります。 1 升は830ml 程度ですから、4 合は332ml 前後となります。このような土器が計量カップとしても使用されたことがうかがえます。



36 須恵器椀(平城京各所出土)

新銭発行と当十銭

和銅元(708)年発行の和同開珎は、半世紀もの間 鋳造され続け、古代官銭では最も多く出土しています。 発行当時の1文は成人男子一日の労役と同じ価値でし たが、徐々に下落していきました。天平宝字4(760) 年に万年通宝、その5年後に神功開宝を和同銭の10倍 の価値をもたせた当十銭として発行したため、貨幣価 値は一層下がり、物価が大きく上昇しました。人々は 苦しみ、社会不安を招くことにもなりました。



37 和同開珎·万年通宝·神功開宝(平城京各所出土)



さしぜに **経銭**

緡銭とは、ひもを銭の穴に通して一連の束にまとめたもので、 銅銭100枚を基本単位としていました。

東市の掘立柱建物の柱穴から出土した緡銭は銅銭51枚がさ び付いており、半連50枚の近似値を示しています。

ものをつくる

京内の官営工房・貴族の邸宅内・市の近くで鉄器・銅製品・ガラス玉・漆器など様々な日用品の生産が行われて いましたが、小規模な生産が多かったようです。

生活物資は京外で生産されて持ち込まれたものが多く、一部は東西の市で売買されたと考えられます。

お金をつくる

お金の発行は国の専権で、河内・山城・長門など京外の鋳銭司で主に生産されました。京内でも左京三条四坊で 和同開珎、左京六条一坊で神功開宝の鋳型を含む鋳銭遺物が出土しており、貨幣鋳造が行われたことがわかってい ます。



39 神功開宝鋳銭遺物(左京六条一坊出土)

くりもの まげもの **刳物・曲物をつくる**

森林資源が豊富で水運の及ぶ山間地には、木材生産を行うための植が設けられていました。京から東へ約10Km の位置にある水間杣(水間遺跡)もその一つです。



40 刳物・曲物の未成品と曲物(水間遺跡出土)

水間遺跡からは、日常 的に使う刳物や曲物の製 作工程を示す未成品が出 土しています。これらの 木製容器は、杣でつくら れて京内へ運ばれたこと がわかります。京を取り 巻く地域において、木器 製作の具体的内容を示す 考古資料は少なく、杣の 実態を知るうえでも貴重 な資料です。

楽しみ

THE SHE SHEET THE SHEET TH

現在につながるいくつかの娯楽が平城京でも流行しました。宴で琴の音色を楽しむ優雅な貴族がいる一方、双六や囲碁に熱中し、賭博や飲酒で事件を起こすこともしばしばありました。賭博や飲酒の禁止令も奈良時代には出されています。

THE SECOND SHOWED THE SECOND S

楽器で楽しむ ^{こと}

右京二条三坊の井戸枠に転用された琴の上板で、琴頭と側面 (磯)を欠失します。琴尾の櫛形突起の間隔が1箇所だけ広く、 そこを琴の中軸とみれば、六弦の和琴に復原できます。

琴は貴族の教養の一つであり、宴において主に男性が弾きました。また、鎮魂祭においては、人の霊力を復活させる重要な楽器でした。



41 琴(右京二条三坊出土)

独楽はすべて砲弾形で、軸がない鞭独楽です。棒の先に布などの柔らかくしなるものを取り付け、独楽の側面を それで叩くと、飛びながら回ります。これを繰り返して遊びます。



42 独楽・賽子・碁石(平城京各所出土)

くじび 籤引き

西大寺旧境内から籤引きに使用したとみられる木簡が 出土しています。法王・法師・紗弥という僧の位の優劣 と仏教上で最も忌わしい我鬼(餓鬼)が一枚ごとに記さ れています。引いた籤に書かれたものに成るという遊び です。法王を引くと大当たり、我鬼を引くと大外れです。

籤引きの木簡は、長屋王邸からも見つかっており、当 時の遊びの一端がうかがえます。 賽子は長さ4.1cmの六角柱の両端を六角錐に削り、 隣接する3つの側面に一・五・三と墨書きしています。 その他の側面にはなぜか数字の墨書きがありません。

碁石は左京五条二坊の井戸から出土したもので、黒石2個と白石6個があります。黒石は粘板岩、白石は石英を丸くみがいてつくっています。直径は1.2~1.6cmで、今の碁石と比べて不揃いで小ぶりなものです。



運びこまれたもの

京内には、納税にともなう物品、建築資材、出身地での愛用品、交易品などのさまざまな物資が国内外から運びこまれ、日本の物流の中心地でした。イスラム陶器の出土もあって、平城京の物流ネットが遥か西アジアにまでつながっていたことには驚かされます。



44 貢進木簡(二条大路側溝出土)

_{せいえんどき} 製塩土器

表面が粗くて焼きも良くない土器片が京内から出土します。和歌山県から大阪湾沿岸の地域より塩が入ったまま運ばれてきた細長い丸底の製塩土器です。細かく割れたものが多いのは、塩を得る際に割られたためと考えられます。



~国内から~

こうしんもつ つけふだもっかん 貢進物の付札木簡

各国から京へ送られた貢進物には、その内容を記した荷札(木簡)が付いていました。1は淡路国津名郡(兵庫県淡路市〜洲本市の一部)から庸米を、2は遠江国長上郡(静岡県磐田市〜浜松市の一部)から鮎塩煮干を送ったことが墨書きされています。これらの木簡は二条大路の側溝から出土したもので、木簡が付けられたままの物資が貴族や離宮に運びこまれていることがわかります。



45 製塩土器(平城京各所出土)

はりまのくに 播磨国の鬼瓦

46 播磨国の鬼瓦(左京五条四坊出土)

みののくに **美濃国の刻印須恵器**

平城京で出土する須恵器は、それ自体が諸国から運ばれてくる貢納品でした。 製作技法や形、胎土の特徴などから数カ 国より運ばれてきたものがあることが分かっています。現在も窯業が盛んな美濃 国(岐阜県南部)は貢納国の一つで、その製品には「(美)濃」あるいは「美濃 国」と刻印があり、焼物のブランドを表示しています。





48 北陸産の須恵器(右京二条三坊出土)

北陸産の須恵器甕

近畿地方では見かけない須恵器の長胴甕が右京二条三坊から出土しています。器形は底の丸い砲弾形で、口縁部が短く外に開きます。体部の外面に横方向の条線(カキメ)が付き、底部にタタキの痕跡があります。このような特徴は、北陸地方の越前国〜越中国(石川県〜富山県)で出土する土師器甕とよく似ています。焼成方法が異なりますが、北陸産の土器であるのは間違いないようです。

かいのくに 甲斐国の土師器杯



49 甲斐国の土師器杯(左京二条四坊出土)

~海外から~

新羅国(朝鮮半島)の土器と石製容器

新羅土器 土器の表面に工具で紋様をつけるのが新羅 土器の特徴で、6世紀後半から9世紀前半までつくられ ていました。

左京五条四坊から出土した新羅土器は、肩がはる長胴 形で平底の短頸壺です。胴部の表面に弧を描く二重の紋 様がつけられています。

正倉院には新羅との交易を示す文書が残っており、薬 や香料、染料が日本にもたらされていました。これらの 土器もそういったものの容器であったのかもしれません。

石製容器 軟質の石材 (滑石) を轆轤で削って製作さ れた石製容器が京内から出土しています。頂部に沈線が めぐる蓋1点は、金属製容器の蓋の形をまねています。 その他の4点は、壺の一部です。

轆轤挽きの滑石製容器は日本で生産されていないもの です。新羅の遺跡から多数出土しており、新羅国から運 び込まれた遺物である可能性が考えられます。



50 新羅土器(左京五条四坊出土)



51 新羅国の石製容器(平城京各所出土)



52 渤海国の土器? (左京五条四坊出土)

渤海国からきたものでしょうか?

黒ずんだこの土器片は、左京五条四坊の井戸から出土しまし た。形は頸の短い甕で、口縁部は端部を外側に折り曲げて丸く つくり、外面の肩の部分に一条の低い稜線がめぐるのが特徴で す。やや軟らかい焼成で、内外面を燻して黒く仕上げます。

このような土器は日本で出土例がないものの、中国北東部の 渤海国出土土器と似ています。調査報告例が少なく確定には至 りませんが、製作地・来歴ともに興味深い土器です。



唐の彩り

唐三彩は、中国の唐代を代表する施釉陶器です。彩りの鮮やかな唐三彩は緑・白・褐色のほか藍色の釉薬を用いて、低い温度で焼成しています。奈良三彩は、唐三彩の技術をもとに日本で作られました。

華やかな光沢と色彩の唐三彩は、都の人々の あこがれの焼物だったようです。

西アジアのエメラルドグリーン

イスラム陶器は、中東のイスラム帝国で生産された軟質の陶器です。内外面に青緑色の厚い釉薬がかけられています。このようなイスラム陶器は、これまでに東南アジアや中国の沿岸部にある港湾都市遺跡、九州の大宰府跡や鴻臚館跡などから出土していましたが、平城京では初めての出土例です。神護景雲2(768)年の記年がある木簡や奈良時代後半の土器類と一緒に出土していて、現在のところ国内最古のイスラム陶器です。復原すると高さ40cm ほどの壺になります。

海上交易を通じ、中国を経由して日本に 持ち込まれたものと思われます。焼物の質 は非常に軟質で、中国陶磁と比べると品質 が高いとは言えません。日本では入手でき ない西アジアの珍しい産物の容器であった と考えられます。



54 イスラム陶器(西大寺旧境内出土)



推定できるイスラム陶器の来た道 (海のシルクロード)

まじないの世界

医学が発達していない古代では、病や災いは鬼や悪霊のしわざと考えられ、中国に倣った祭式が伝わり、それを 識うための祭祀具が平城京内では一般化していました。民間の呪術師もあらわれ、さまざまなまじないが京内では 行われていました。

埋納されたもの ネ なる 施衣毒

子供を出産した時に、後産ともよばれる胎盤(胞衣)が 遅れて体外に出てきます。昔はこれを子供の分身と考えて、 丁重に扱う習俗がありました。その一例を示すのが胞衣壺 の存在です。壺や杯などの容器の中に胎盤を納め、蓋で密 閉して地下に埋めました。左京五条五坊出土の胞衣壺には、 子供の成長を願って神々に捧げた5枚のお金がそえられて いました。



57 地鎮に使われた三彩火舎と須恵器壺 (左京五条四坊出土)

ひとがた 人形を封入する壺

右京二条三坊の井戸から、頸のない須恵器の小型 壺が出土しました。これを洗浄したところ、中から 折りたたんだ人形が二つ出てきました。1点はあご ひげを生やした男性のような顔、もう1点には人の 顔とは思えない奇妙な表現が墨書きされています。 後者の人形には右脇腹あたりに木釘が打ち込まれて あり、悪霊に病がうつるよう念じた行為ではないか とも思われます。



55 胞衣壺(左京五条五坊出土)

世鎮

宅地の造成や建造物を建てるなどして土地をさわる場合、土地の神様が怒って災いをもたらさないように祈りを込めてさまざまなものをそこに埋納しました。これらを地鎮(土地を鎮める行為)と呼んでいます。左京五条四坊では宅地全体あるいはその区画施設をつくる時に行われた多くの地鎮遺構が確認されています。中でも三彩の小型火舎を埋納した例はここだけしか見つかっておらず、珍しい資料といえます。



58 人形とその封入壺(右京二条三坊出土)

都の祭祀具

人の穢れを祓う身代り

鬼や悪霊による病や災いを祓うための身代りとして使用されたのが、薄板を人の形に加工した人形や顔を描いた人面墨書土器と考えられています。人形には大きさや素材などが異なる例があり、身分や原因の違いで使い分けられていたようです。災厄をうつした人形をあの世へと通じる井戸や川に投げて、それを断ち切ろうとしました。人面墨書土器も中に息を吹き込んで災厄をうつし、川に流したと考えられています。



59 人形と人面墨書土器(平城京各所出土)

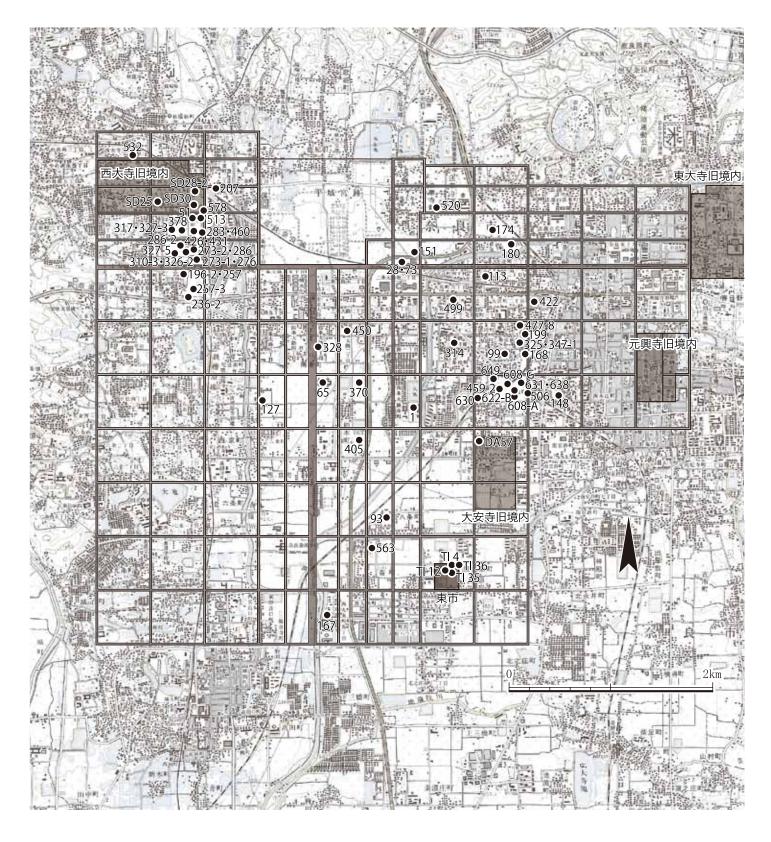


神の道具と依り代

板の側面を削ったり、切り欠いたりしてさまざまな形状をつくり出しているのが斎串です。目に見えない神様の依り代です。同じく板で作られた刀形と馬形は神様の持ち物と乗り物でしょう。男性を象徴する陽物もあわせて、清浄な湧水の永続を水神に願いつつ井戸底に入れられた祭祀具です。

60 斎串・刀形・馬形・陽物

(平城京各所出土)



主な展示品の出土場所を、展示品目録記載の調査次数で地図に示しています。

[凡例]

・数字のみ 平城京の調査次数

・SD+数字 西大寺旧境内の調査次数

DA+数字 大安寺旧境内の調査次数

・TI+数字 東市跡の調査次数

水間遺跡は、平城京との位置関係を別図で示しました。



平成25年度特別展 展示品目録

掘り出された建物

写真 番号	種類	器種		出土遺跡	調査次数	出土地	年 代
3	三彩施釉瓦		平城京	(左京二条二坊)	73次	法華寺町	8 世紀
4	朱付着瓦	6316K·6711A(軒平瓦に朱付着)	平城京	(朱雀大路)	328次	四条大路3丁目	8 世紀
5	建築部材	屋根板(下材)	平城京	(左京一条三坊)	520次	法華寺町	8 世紀
8	建築部材	垂木	西大寺旧]境内	SD 28-2次	西大寺南町	8 世紀
	建築部材	柱	東市	(左京八条三坊)	TI 35次	東九条町	8 世紀
9	建築部材	扉	平城京	(右京二条三坊)	51次	西大寺南町	8 世紀
"	建築部材	閾	平城京	(右京二条三坊)	286-2次	菅原町	8 世紀
	建築部材	楣	平城京	(左京五条一坊)	370次	柏木町	8 世紀
11	建築部材	連子窓枠材	平城京	(右京二条三坊)	286次	菅原町	8世紀
13	建築部材	柱	東市	(左京八条三坊)	TI 4次	東九条町	8世紀
	建築部材	床板	西大寺旧]境内	SD 30次	西大寺南町	8世紀

井戸のかたち

写真 番号	種類	器種		出土遺跡	調査次数	出土地	年 代
15	井戸枠	方形隅柱横板組型	平城京	(左京四条四坊)	325次	三条宮前町	8世紀
16	汲水器	釣金具付木製釣瓶	平城京	(左京五条二坊)	1 次	大安寺西1丁目	8世紀
	汲水器	籠付き土師器甕	平城京	(左京四条一坊)	450次	四条大路2丁目	8世紀
17	井戸枠	円形丸太刳り抜き型	平城京	(左京五条四坊)	608次-G	大森町	8世紀
18	井戸枠	陶製井筒型	平城京	(左京三条五坊)	422次	大宮町1丁目	8世紀
19	刻字井戸枠	円形丸太刳り抜き型の一部	平城京	(左京五条四坊)	638次	大森町	8世紀

暮らしの器

写真 番号	種類	器種	出土遺跡	調査次数	出土地	年 代
	土師器	ША	平城京 (左京四条五坊)	268-2次	三条本町	8 世紀
	土師器	杯A	平城京 (左京五条一坊)	24次	柏木町	8 世紀
	土師器	椀A	東市 (左京八条三坊)	TI 12次	杏町	8 世紀
	土師器	ШВ	平城京 (右京四条二坊)	18次	四条大路5丁目	8 世紀
	土師器	蓋	大安寺旧境内	DA 22次	大安寺5丁目	8世紀
21	須恵器	杯B	平城京 (右京七条二坊)	93次	八条町	8 世紀
۷ ۱	須恵器	杯B	平城京 (右京七条二坊)	93次	八条町	8世紀
	須恵器	杯B	平城京 (左京四条四坊)	347-2次	三条大宮町	8世紀
	須恵器	杯蓋	平城京 (左京五条一坊)	65次	柏木町	8世紀
	須恵器	杯蓋	平城京 (右京七条二坊)	93次	八条町	8 世紀
	須恵器	杯蓋	平城京 (左京四条四坊)	347-2次	三条大宮町	8 世紀
	須恵器	ШС	東市 (左京八条三坊)	TI 12次	杏町	8 世紀
	須恵器	壺M	大安寺旧境内	DA 63次	大安寺1丁目	8世紀
	須恵器	壺L	東市 (左京八条三坊)	TI 4次	東九条町	8 世紀
	須恵器	壺L	西大寺旧境内	SD 14次	西大寺南町	8 世紀
	須恵器	平瓶	平城京 (左京六条三坊)	52次	大安寺3丁目	8世紀
22	須恵器	平瓶	平城京 (右京三条三坊)	226次	菅原東町	8世紀
	須恵器	平瓶	平城京 (右京二条三坊)	310-1次	菅原町	8 世紀
	須恵器	壺G	平城京 (左京五条五坊)	9次	西木辻町	8 世紀
	須恵器	壺H	平城京 (左京四条三坊)	314次	三条栄町	8 世紀
	須恵器	四耳壺	平城京 (左京四条四坊)	218次	三条本町	8世紀
	木器	★椀	平城京 (右京三条三坊)	236-2次	菅原東町	8 世紀
	木器	木皿	東市 (左京八条三坊)	TI 4次	東九条町	8世紀
23	木器	木皿	平城京 (右京二条三坊)	276次	菅原町	8世紀
	木器	曲物	平城京 (左京二条四坊)	174次	法蓮町	8世紀
	木器	しゃもじ	平城京 (右京三条三坊)	257-3次	菅原東町	8世紀
	木器	箸	西大寺旧境内	SD 25次	西大寺新田町	8 世紀
	漆器	漆器皿	東市 (左京八条三坊)	TI 12次	杏町	8世紀
24	漆器	漆塗壺形容器	平城京 (左京五条四坊)	630次	大森西町	8世紀
24	金属器	佐波理椀	平城京 (左京四条三坊)	314次	三条栄町	8世紀
	金属器	佐波理椀	平城京 (左京五条一坊)	65次	柏木町	8 世紀
	金属器	佐波理箸	平城京 (左京五条一坊)	65次	柏木町	8 世紀

	土師器	甕	平城京	(左京二条二坊)	151次	法華寺町	8世紀
	土師器	甕	平城京	(右京三条三坊)	236次	菅原東町	8世紀
	土師器	鍋	東市	(左京八条三坊)	TI 12次	杏町	8世紀
25	土師器	甑	東市	(左京八条三坊)	TI 12次	杏町	8世紀
25	須恵器	甕 C	平城京	(左京五条五坊)	9 次	西木辻町	8世紀
	汲水器	瓢の柄杓	平城京	(右京三条三坊)	257-1次	菅原東町	8世紀
	木器	曲物	平城京	(右京二条三坊)	327-1次	青野町	8世紀
	土師器	かまど	平城京	(左京五条五坊)	506次	大森町	8 世紀

暮らしの用具

写真 番号	種類	器種	出土遺跡	調査次数	出土地	年 代
26	履物	下駄	平城京 (左京三条三坊)	499次	大宮町4丁目	8 世紀
	履物	木履	東市 (左京八条三坊)	TI 12次	杏町	8 世紀
27	服飾具	竪櫛	東市 (左京八条三坊)	TI 4次	東九条町	8世紀
	服飾具	横櫛 大中小3点	平城京 (左京五条二坊)	1次	大安寺西1丁目	8 世紀
	帯金具	 	平城京 (左京四条四坊)	99次	三条大宮町	8 世紀
	帯金具	鉸具	平城京 (左京四条四坊)	325次	三条本町	8 世紀
	帯金具	丸鞆(3点)	平城京 (右京二条三坊)	283次	青野町	8 世紀
	帯金具	丸鞆	平城京 (右京二条三坊)	378次	菅原町	8 世紀
28	帯金具	巡方	平城京 (左京二条四坊)	180次	法蓮町	8 世紀
20	帯金具	巡方	平城京 (右京一条二坊)	207次	西大寺栄町	8 世紀
	帯金具	巡方	東市 (左京八条三坊)	TI 4次	東九条町	8 世紀
	帯金具	巡方	平城京 (右京二条三坊)	378次	菅原町	8 世紀
	帯金具	蛇尾	平城京 (左京四条四坊)	347-1次	三条宮前町	8世紀
	帯金具	蛇尾	平城京 (右京二条三坊)	378 - 7次	菅原町	8 世紀
29	服飾具	漆紗冠	大安寺旧境内	DA 57次	大安寺4丁目	8 世紀
30	服飾具	檜扇	平城京 (右京二条三坊)	273-1次	菅原町	8 世紀
31	こよみ	具注暦(漆紙文書)	平城京 (右京二条三坊)	513次	西大寺南町	8 世紀
	農工具	鉄刀子	平城京 (右京二条三坊)	327 - 3次	青野町	8 世紀
	農工具	鉄刀子	平城京 (左京四条五坊)	486次	大森町	8 世紀
	農工具	鉄鎌	平城京 (左京五条二坊)	1 次	大安寺西1丁目	8 世紀
	農工具	鉄斧	平城京 (左京二条四坊)	180次	法蓮町	8 世紀
32	農工具	鉄斧	平城京 (右京二条三坊)	351 - 2次	青野町	8 世紀
32	農工具	斧柄(タテ)	平城京 (左京四条四坊)	199次	三条本町	8 世紀
	農工具	斧柄(ヨコ)	平城京 (左京二条四坊)	180次	法蓮町	8 世紀
	農工具	鏟	平城京 (左京五条四坊)	557次	大森町	8 世紀
	農工具	鉄製鋤先	平城京 (右京北辺四坊)	532次	西大寺宝ケ丘町	8 世紀
	農工具	木槌(柄は欠損)	平城京 (左京四条四坊)	168次	三条本町	8 世紀
33	雑具	鍵	平城京 (右京二条三坊)	327-3次	青野町	8 世紀
34	調度品	辛櫃	平城京 (左京五条四坊)	631次	大森町	8 世紀

単位とお金

写真 番号	 種 類 	器種		出土遺跡	調査次数	出土地	年 代
35	秤の錘	錘(市指定文化財)	平城京	(左京九条一坊)	167次	西九条町	8世紀
33	文房具	ものさし	平城京	(左京八条二坊)	563次	杏町	8世紀
36	「四合」墨書土器	椀 B	平城京	(左京五条四坊)	459-2次	大森町	8世紀
30	須恵器	椀 B	平城京	(右京五条一坊)	127次	五条町	8世紀
	銭貨	和同開珎(20枚)	東市	(左京八条三坊)	TI 4次	東九条町	8世紀
37	銭貨	万年通宝(1枚)	東市	(左京八条三坊)	TI 4次	東九条町	8世紀
	銭貨	神功開宝(1枚)	東市	(左京八条三坊)	TI 4次	東九条町	8世紀
38	銭貨	緡銭(51枚)	東市	(左京八条三坊)	TI 36次	東九条町	8 世紀

ものをつくる

写真 番号	種類	器種	出土遺跡	調査次数	出土地	年 代
1 30	神功開宝 鋳銭遺物	鋳型・鋳放し銭・鋳棹 (市指定文化財)	平城京 (左京六条一坊)	405次	柏木町	8 世紀
	刳物未成品		水間遺跡	MM 6次-H	水間町	8 世紀
40	曲物未成品		水間遺跡	MM 6次-H	水間町	8 世紀
	木器	曲物	水間遺跡	MM 3次	水間町	8 世紀

楽しみ

写真 番号	種類	器種	出土遺跡	調査次数	出土地	年 代
41	楽器	琴	平城京 (右京二条三坊)	317次	青野町	8世紀
	遊戱具	独楽	平城京 (左京五条二坊)	1 次	大安寺西1丁目	8世紀
	遊戱具	独楽	大安寺旧境内	DA 57次	大安寺4丁目	8世紀
42	遊戱具	独楽	平城京 (右京二条三坊)	317次	青野町	8 世紀
	遊戱具	賽子	平城京 (左京二条二坊)	151次	法華寺町	8世紀
	遊戱具	碁石(白5枚・黒2枚)	平城京 (左京五条二坊)	1 次	大安寺西1丁目	8 世紀
43	遊戱具	籤引き木簡(4枚)	西大寺旧境内	SD 25次	西大寺新田町	8世紀

運びこまれたもの

~	±0.5 x 11/2 00									
写真 番号	種類	器種	出土遺跡	調査次数	出土地	年 代				
44	貢進木簡	淡路国木簡	平城京 (左京二条大路)	28次	法華寺町	8世紀				
44	貢進木簡	遠江国木簡	平城京 (左京二条大路)	28次	法華寺町	8世紀				
45	製塩土器		平城京 (右京二条三坊)	426次	青野町	8世紀				
45	製塩土器		平城京 (左京四条四坊)	477-8次	三条宮前町	8世紀				
46	鬼瓦	播磨国産	平城京 (左京五条四坊)	649次	大森西町	8世紀				
47	須恵器高杯	美濃国刻印	平城京 (右京三条三坊)	257次	菅原東町	8世紀				
4'	須恵器杯 B	美濃国刻印	平城京 (右京二条三坊)	431次	青野町	8 世紀				
48	須恵器長胴甕	北陸産(2点)	平城京 (右京二条三坊)	460次	横領町	8世紀				
49	土師器杯	甲斐型杯(4点)	平城京 (左京二条四坊)	180次	法蓮町	8世紀				
50	新羅土器	壺	平城京 (左京五条四坊)	622 - B次	大森町	8世紀				
	新羅石製容器	石製壺	平城京 (右京三条三坊)	196-2次	菅原町	8世紀				
	新羅石製容器	石製壺	平城京 (右京二条三坊)	273-2次	菅原町	8 世紀				
51	新羅石製容器	石製蓋	平城京 (右京二条三坊)	310-3次	菅原町	8世紀				
	新羅石製容器	石製壺	平城京 (右京二条三坊)	327-5次	菅原町	8 世紀				
	新羅石製容器	石製壺	平城京 (右京二条三坊)	327-5次	菅原町	8世紀				
52	渤海土器	獲	平城京 (左京五条四坊)	631次	大森町	8 世紀				
	唐三彩	三足炉	平城京 (右京一条南大路)	578次	西大寺南町	8世紀				
53	唐三彩	輪花杯	平城京 (右京七条二坊)	93次	八条町	8世紀				
	唐三彩	杯 (2点)	平城京 (右京五条一坊)	127次	五条町	8世紀				
54	イスラム陶器	壺	西大寺旧境内	SD 25次	西大寺新田町	8 世紀				

まじないの世界

写真 番号	種類	器種		出土遺跡	調査次数	出土地	年 代
55	胞衣壺	須恵器壺A・蓋	平城京	(左京五条五坊)	148次	西木辻町	8世紀
57	地鎮用埋納土器	須恵器壺L・三彩火舎	平城京	(左京五条四坊)	608-A次	大森町	8 世紀
58	人形封入壺	須恵器壺Mと人形2点	平城京	(右京二条三坊)	326-2次	菅原町	8 世紀
	人面墨書土器	土師器	東市	(左京八条三坊)	TI 4次	東九条町	8世紀
	祭祀具	人形(大型)	東市	(左京八条三坊)	TI 35次	東九条町	8世紀
59	祭祀具	人形(大型)	平城京	(左京五条五坊)	506次	大森町	8世紀
39	祭祀具	人形	大安寺旧	境内	DA 57次	大安寺4丁目	8世紀
	祭祀具	人形	平城京	(右京二条三坊)	283次	青野町	8世紀
	祭祀具	銅製人形	平城京	(右京二条三坊)	378次	菅原町	8世紀
	祭祀具	斎串(1点)	平城京	(左京五条二坊)	1 次	大安寺西1丁目	8世紀
	祭祀具	斎串(3点)	平城京	(左京三条四坊)	113次	芝辻町2丁目	8世紀
	祭祀具	斎串(2点)	平城京	(右京五条一坊)	127次	五条町	8世紀
60	祭祀具	斎串(2点)	平城京	(右京二条三坊)	283次	青野町	8世紀
	祭祀具	刀形(4点)	平城京	(右京二条三坊)	283次	青野町	8世紀
	祭祀具	刀形	平城京	(右京三条三坊)	236-2次	菅原東町	8世紀
	祭祀具	陽物	平城京	(右京二条三坊)	283次	青野町	8世紀
	祭祀具	馬形	平城京	(右京二条三坊)	283次	青野町	8 世紀

- 1 この冊子は、平成25年11月5日~12月27日まで奈良市埋蔵文化財調査センターで開催する秋季特別展「平城京を掘る 奈良市埋蔵文化財調査センター30周年記念-」の解説パンフレットです。
- 2 掲載した写真は、奈良市埋蔵文化財調査センター及び佐藤右文が撮影したものです。
- 3 掲載写真は、展示品のすべてではありません。
- 4 本書の作成は、埋蔵文化財調査センター職員の協力を得て、保存活用グループが行いました。

